

明治時代に日本人が初めて設立した老人ホームを起源とする社会福祉法人「神戸老人ホーム」(神戸市東灘区、八木良三理事長)が今年、創立120年を迎えた。これを記念して同法人は、創設者・寺島ノブへ(1867~1918年)の「友愛」の精神を法人理念に掲げ、新たな一步を踏み出した。

(坂本竜之介)

# 創立120年「友愛の心」継承

## 日本人設立初の「養老院」起源 神戸老人ホーム

寺島は伊予(愛媛県)の出身。24歳でクリスチャンとなり、看護師を志して京都へ。看護学校を卒業後、大阪、神戸などで「派出看護婦」(訪問看護師)として働いた。

自らの家庭環境が複雑だったことなどから孤児救済事業を目指したが、やがて孤独な境遇の高齢者に目を向けるようになる。1899(明治32)年、神戸市生田区(現・中央区)の借家に、「友愛養老院」を創設した。日本人が設立した老人ホ

寺島ノブへ(いづれも社会福祉法人「神戸老人ホーム」提供)



ムとしては国内初とされ、高齢者福祉が未整備だった時代にあつて先駆的な取り組みだった。寺島と親交のあつた著名な社



友愛養老院から名称を変更した神戸養老院。大正7(1918)年の様子

会事業家・賀川豊彦は、著書で「(寺島によって)凡ての老人は、自分の親の如くに取扱われた」と記している。

小さな借家で始まった事業は、後継者に引き継がれ、発展した。

今年4月、同市東灘区鴨子ヶ原3に特別養護老人ホーム「かもこの風」がオープンするなど5施設(367床)、職員約300人を擁し、回区内で14の事業を手掛ける。

寺島が創設した施設に冠した「友愛」とは、「困っている人に、わがことのように手をさしのべる。人のために生きる、人のために尽くすこと」と同法人職員は話す。創立120年の節目に、同法人は「友愛の心をもつて 豊かな社会を創造し、地域に貢献します」など、「友愛」を掲げる三つの法人理念を定めた。

同法人は「友愛を再度強調し、創設者・寺島ノブへの精神をこれまで以上に引き継いでいく」という。

寺島ノブへの精神掲げ新たな一步